

2017 年九州北部豪雨による小石原焼の里の被災とその報道

九州産業大学 学生会員 ○奥村祥也 九州産業大学 正会員 山下三平
久留米工業大学 大森洋子 金沢大学 丸谷耕太 龍谷大学 林珠乃

1. はじめに

福岡県朝倉郡東峰村は、44 軒の小石原焼窯元があり、独特な窯業地の文化的景観を形成している。ここでは店頭販売の割合が高いために、訪問客の増加に関心をもつ窯元が多い¹⁾。このため窯元らは観光資源でもある景観を重要視している。

2017 年 7 月に、この地域は九州北部豪雨による被害を受けた。一早い復旧が実施される一方で、文化的景観として、今後、地域の基本的な意向を尊重しながら、景観の丁寧な復旧・整備が課題となるであろう。

本研究は、平成 29 年 7 月九州北部豪雨による、小石原焼窯元施設の被害状況を調べる。また、被災後の被災地に対する関心の動向を追跡する。こうして小石原焼の里の文化的景観についての、今後の保全に役立つ知見を得ることを試みたい。

2. 研究方法

(1) 対象地域

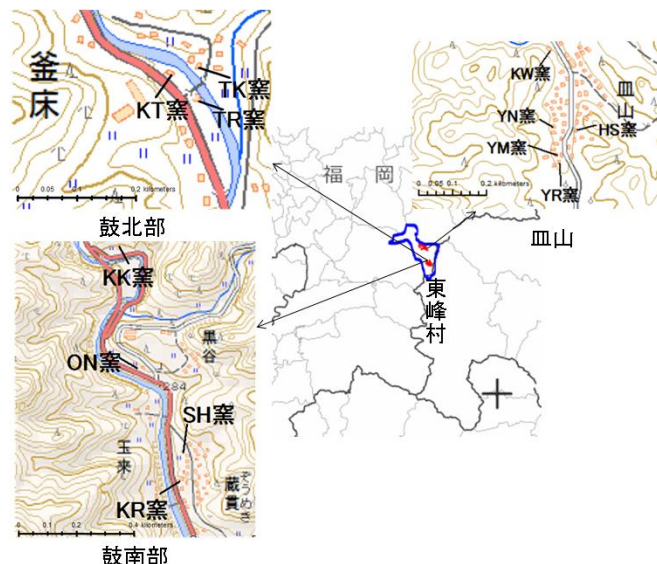


図-1 対象地域と窯元の位置の概要（国土地理院より）

福岡県の中南部に位置する東峰村は、面積が 51.97 km²、人口 2,204 人（2017 年 5 月）で大分県の日田市と隣接している。東峰村の小石原地区は 17 世紀末から続く焼物の産地であり、1960～70 年代に、民芸ブームで拡大路線を選んだ。このとき当初の 10 軒から現在の

44 軒まで、窯元が増加したのである。売り上げの多くは店頭販売によるもので、集客のため観光に力を入れてもいる¹⁾。

(2) 調査

被災後の 7 月 9 日と 13 日に、各窯元を訪れ、平成 29 年 7 月の九州北部豪雨による被災状況をヒアリング調査した。また、2017 年 7～11 月の全国紙ならびに西日本新聞の報道内容をすべて調べ、それぞれテーマ別に分け、時系列にそって検討した。

3. 結果と考察

(1) 被害状況

表-1 ヒアリング調査のまとめ^{*)}

	浸水	倒壊	店舗	工房	家屋	商品の損壊	その他の被害	営業再開のめど
HS窯	×	×	×	×	×	×	裏山から土砂流出、雨漏り	○
YN窯	×	×	×	×	×	×	裏山からの土砂流出、一部家の中に	○
MR窯	○	×	×	×	×	×	駐車場に土砂流入	○
KM窯	○	×	×	×	×	×	なし	○
KW窯	×	○	×	×	○	×	裏山からの土砂流出、一部家の中に	○
OK窯	○	×	×	×	×	×	×	○
HZ窯	○	×	×	×	×	×	×	○
IM窯	○	×	×	×	×	×	×	○
OM窯	×	○	×	×	○	×	裏山の土砂流出	○
TR窯	×	○	×	○	○	×	×	○
KR窯	○	×	×	×	×	×	×	○
DS窯	○	×	×	×	×	×	土砂の流出、家の中に（台所が壊れた）	○
TT窯	○	×	×	×	×	×	×	○
SH窯	○	×	×	×	×	×	（店舗と工場に土砂が流入）	×
YS窯	○	×	×	×	×	×	×	×
OU窯	○	×	○	○	×	×	×	○
MT窯	○	×	×	×	×	×	×	○
HR窯	○	○	○	○	○	×	×	○
TK家	×	○	×	×	×	×	駐車場に土砂流	×
KS窯	○	○	○	○	○	○	×	○

^{*)} 黄色：皿山地区、赤：鼓地区、黒：国道 212 号沿い

表-1 はヒアリング調査で東峰村の窯元の 44 軒のうち、被害のあった窯元の 20 軒の被災状況をまとめたものである。このうち 15 軒が浸水被害を受けている。また、とくに大きな被害である「倒壊」が発生したのは 7 軒であり、そのうち 4 軒は鼓地区である。一方、18 世紀から小石原焼が 9 軒の窯元で長く受け継がれて来た皿山地区（現在は 13 軒）では、1 軒のみである。

ヒアリングの意見としては、2 階で昼寝をしていた工場の 1 階が、目がさめると一気に土砂で押し流され

たというものや、流倒木が家屋に入り込む恐怖など、生々しいものであった。また店舗や工場の清掃と洗浄のためのボランティアが欲しいという意見が複数件見られた。

(2) 小石原焼の里の被害と復旧

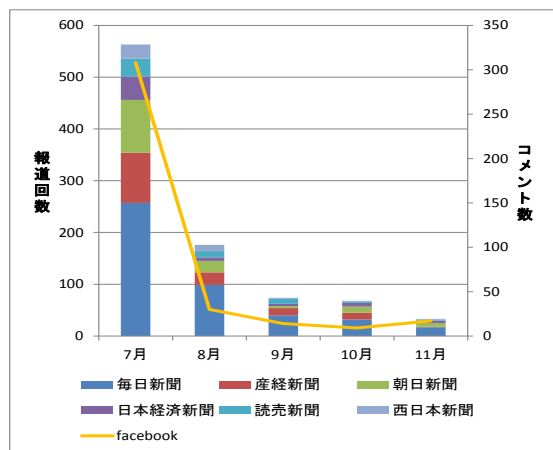


図-2 マスコミの報道回数と facebook のコメント数

表-2 マスコミと facebook の被害と復旧の変遷

月/テーマ	被害状況	支援活動	主な報道
7月	電話やインターネットが利用できない状況停電が続き、断水している。	入浴無料施設や避難所一覧などの情報提供	被災状況や捜索活動
	停電が続き、断水している。	豪雨被災東峰の小石原焼を支援へ福岡で販売	
	九州豪雨、死者35人	朝倉と東峰村に訪れたボランティア延べ2万人超え	
	東峰村でも孤立者がゼロになった	「ふるさとチョイス」は近況品のない東峰村約2千円	
8月	住宅の全半壊は両県で計775棟	大川から食器棚22台と寝ざし22枚が贈られた	仮設住宅の設立
	被災地の木は少なくとも計20万トン	被災した窯元が使用できる共同窯をつくる	
	被災者向け仮設住宅の入居が始まる	「インスタ映え」新たな支援の形、豪雨被災地の魅力発信	
	東峰村の小中一貫校、東峰学園で2学期が始まった	豪雨被災地で役立てて、中学生が清良チップ袋詰め	
9月	東峰村では8月中旬から仮設住宅への入居が始まり計56戸で126人が暮らし	国史跡の三連水車デザインしたタオルを作った	被害総額や被害件数
	農地や道路、河川、商工業などの被害額は福岡県が1941億円	東峰村の仮設住宅や避難所など計8施設で約250枚を配った	
10月	福岡、大分県で37人が亡くなり4人が行方不明	九州北部豪雨で被災した窯元が使う共同のガス窯が完成	民陶祭や支援活動
	福岡県東峰村の仮設住宅には2077人が入居	「民陶祭」が開かれる	
	約50軒の窯元の半数以上が被災	天皇、皇后両陛下がお見舞いに訪れた。	
	道路規制の解除		
11月		華日市の日本茶専門店「お茶の星陽園」で30日、和菓子と日本茶を楽しむイベントが開かれる。	

図-2 に各新聞社の報道回数と facebook のコメント数の、月ごとの件数を示す。新聞報道の件数を見ると、被害発生直後は多いものの、その後急激に減少していることが分かる。facebook のコメント数も同様である。その内容は被災発生時の7月においては、被災状況や被災した人たちが無料で利用できる入浴施設などに関するものが特徴的であった。その後、復興支援運動の具体的内容が徐々に増加した。一方、新聞の7月の被害と復旧の特徴は、電話やインターネットが使えないことや、断水、被災者の人数、自衛隊による捜索活動のことなどであった。

8月になると、仮設住宅の設立のことや避難している人達の心情などについて書かれている記事が見られるようになり、9月は、被害総額や被害件数などについての記事が目立った。

10月、11月になると被災地の人に対しての支援運動や民陶祭などについての取り組みなどが中心となった記事が多く見られた。なお民陶祭には、例年より圧倒的に多い約13万人もの人々が訪れた。

このようにマスコミのトピックスが最初は被災状況についてのことから、仮設住宅など被災地域の人たちの状況へと変わり、被災地へのボランティアや民陶祭、被害総額のことへと移り変わっていくことが分かる。

4. おわりに

本研究は、小石原焼の里である東峰村の2017年九州北部豪雨による被災・復旧状況を調査・分析し、今後の小石原焼の里の文化的景観の保全についての課題を把握した。

被災にあつたにもかかわらず、民陶祭には例年よりも多い約13万人もの人が集まった。被災地の窯元らの「民陶祭を目標にやってきた」や「来てくれたお客様に元気な姿を見せたい」などといった声も報道された。観光が復興に与える重要な役割が理解される。

しかし、民陶祭がありたくさんの観光客が集まったからといって、まだ復興したわけではない。今でもTK窯のように、唐臼や登り窯を使う伝統工法を維持している窯元の復興は難しく、これからも支援が必要である。とくにマスコミの扱いが減少し、世間の関心が薄れる中、文化的景観についての中長期的な支援の体制が重要と考えられる。

謝辞： 本研究を進めるにあたり、ご協力頂いた小石原の窯元の皆様ならびに関係住民の皆様に感謝の意を表し、心から御申し上げます。本研究は、日本学術復興会科学研究費助成事業(基盤研究C)として、「小石原焼と小石原焼の里における文化的景観表象の分析と評価(代表者：山下三平)の研究として行われたものである。

<参考文献>

- 1) 山下三平・丸谷耕太・内山忠・栗田融：陶芸の里・小石原皿山の景観表象の把握と評価・実存的景観論の試み，土木学会論文集D1, 73(1), pp1-20, 2017.